

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年6月22日

新型コロナ感染歴のある喫煙者は、手術後の死亡率が3.8倍

【松崎雑感】

新型コロナ感染後に手術治療を受けると、感染歴のない人々の4倍近くの死亡率がある事、喫煙者（現在＋過去）は非喫煙者の3.8倍の死亡リスクがあるという報告です。

これは予定された手術であろうと緊急手術であろうと変わりがなかったという事です。新型コロナ感染が落ち着いても、手術治療については、慎重に行った方が良いという事、そして、まだ禁煙していない方は、一刻も早く禁煙をしましょう！

新型コロナ感染歴のある喫煙者は、手術後の死亡率が3.8倍

Shao CC, McLeod MC, Thogaripally S, et al. **Increased Risk of Postoperative Mortality Associated With Prior COVID-19 Infection.** *Am J Prev Med*. 2022;63(1S1):S75-S82. doi:10.1016/j.amepre.2022.01.035

要旨：

新型コロナ感染歴がある人々で手術後の死亡率が増えるかどうかの調査は少数例にとどまっている。

American College of Surgeons National Surgical Quality Improvement Program database のコロナパンデミック前データを基準として、2020年3月から2021年4月までの新型コロナサバイバー（ECMO治療者は除外）の術後死亡率の増減を検討した。

コロナ前の5209例を対照群とした。新型コロナサバイバー1072例から American College of Surgeons National Surgical Quality Improvement Program (一般外科、産婦人科、脳神経外科、整形外科、胸部外科、心血管外科手術分野)に基づく追跡データの揃っている589例を症例群とした。

コロナサバイバー群は対照群よりも若く（48才対59才）、黒人が多く（42%対28%）、待機的手術が少ない（55%対83%）（以上有意差あり）。

術後死亡率はコロナサバイバー群に有意に高かった（4.4%対1%）。

多変量ロジスティック回帰分析では、コロナサバイバー群の術後死亡率は有意に対照群よりも高かった（オッズ比3.8）。

コロナサバイバー群内の解析では、男性（オッズ比2.7）、喫煙歴（オッズ比3.7）、American Society of Anesthesiologists Physical Status Classification Scoreの高い患者（オッズ比4.8）で、術後死亡リスクが有意に高かった。

他の因子をそろえて比較しても、新型コロナ感染から2週間以内に手術治療を受けた喫煙歴のある人々の術後死亡率は6倍近く高かった。

新型コロナサバイバーでは、男性、喫煙歴が術後高死亡リスクと関連していた。